

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330066

研究課題名（和文） グローバル・インバランス論の再検討と新しい調整メカニズム

研究課題名（英文） Research on Global Imbalance and a New Adjustment Mechanism

研究代表者

藤田誠一（FUJITA SEIICHI）

神戸大学・経済学研究科・教授

研究者番号：40135778

研究成果の概要（和文）：

本研究の研究成果は、藤田誠一・岩壺健太郎編『グローバル・インバランスの経済分析』（有斐閣、2010年）として刊行されている。主要な内容は、(1)グローバル・インバランスに関するいくつかの見解を批判的に検討、(2)為替レートのパススルーが低下しており為替レート調整の効果は小さい、(3)中国の経常黒字は貯蓄過剰が原因であり人民元切り上げの効果は小さい、(4)円キャリー・トレードを通じて海外の過剰流動性の流入がアメリカの資産価格バブルの一因となったという意味で世界金融危機の原因と考えられる。

研究成果の概要（英文）：

Main findings are as follows, (1)Global Imbalance can be analyzed from various view points, (2)Adjustment mechanism through exchange rate movements has become weak, (3)Causes of current account surplus of China is excessive savings and the revaluation effects of RMB is seemed to be small, (4)Yen-carry trade can be seen as a cause of World Financial Crisis. (See Seiichi FUJITA and Kntaro IWATSUBO eds. Economic Analysis of Global Imbalance, Yuhikaku, 2010.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2008年度 | 5,500,000 | 1,650,000 | 7,150,000 |
| 2009年度 | 5,000,000 | 1,500,000 | 6,500,000 |
| 2010年度 | 4,300,000 | 1,290,000 | 5,590,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 14,800,000 | 4,440,000 | 19,240,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 財政学・金融論

キーワード：グローバル・インバランス、経常収支不均衡、維持可能性、為替調整

1. 研究開始当初の背景

2000年代半ばに急速に拡大しているグローバル・インバランス（世界的な対外収支の不均衡）については、やがて維持不可能になるので為替の調整が必要であるという意見と、

現在のインバランスは安定的であり調整の必要はないという見方がある。本研究では、現在のグローバル・インバランスは米国や世界経済にとって深刻な問題なのかを検討する。さらに、インバランスが問題であるなら

ばどのような調整が必要なのか、反対に、問題でないならば如何なるメカニズムが今日のインバランスを安定に導いているのかを研究する。

2. 研究の目的

既存研究の多くが米国の経常収支の維持可能性を研究対象としているのに対し、本研究ではグローバル・インバランスの問題を、米国のみならずアジア・欧州を含んだ世界的な対外調整メカニズムの構造変化と捉えて分析する。具体的には、現在のインバランスが安定的かどうかという問題と、為替相場の経常収支調整機能が低下していることを踏まえて、為替相場に替わる対外調整メカニズムの可能性を考察する。

3. 研究の方法

現在のグローバル・インバランスは安定的かどうか、対外不均衡の調整が必要なのかどうかをアプローチの仕方が異なる3つの班に分かれて研究する。松林・北野・五百旗頭は経常収支の側面からマクロ的な分析手法を用いる。岩壺・星河は資本収支の側面から、ミクロ（ときにはマクロ）的な分析手法を用いる。藤田は国際通貨体制の側面から制度論的な分析手法を用いる。定期的な研究会においては専門家を招聘し、意見の交換を行うと同時に、研究の進捗に応じて研究報告会を行い、研究の完成度を高めていく。

4. 研究成果

研究成果は『グローバル・インバランスの経済分析』にまとめられている。

第1章「グローバル・インバランス：理論的展望」では、2国完全雇用開放モデルを用いて、慈善的な「貯蓄超過」や「投資過剰」がグローバル・インバランスの原因となることが明らかにされる。

第2章「グローバル・インバランスの発生と調整：貯蓄・投資バランスからのアプロー

チ」では、米国における住宅価格の高騰に伴う消費ブームは、構造的要因や循環的要因では捉えられない経常収支の赤字を生み出していたことを明らかにしている。

第3章「経常収支の調整パターン：シフト型とV字型」では、過去の経常収支赤字が反転したときの事例をもとに、マクロ経済変数の調整の仕方を比較・検討し、「シフト型」反転と「V字型」反転に大別することができること、また「シフト型」反転では実質為替レートが大きく減価するのに対し、「V字型」反転ではほとんど変化しないといった違いや、「V字型」反転では経済成長率が短期的に大きく落ち込むのに対し、「シフト型」反転ではより緩やかに落ち込むといった違いがあることを明らかにしている。

第4章「為替レートと経常収支：調整メカニズムの構造変化」では、90年代後半以降経常収支と為替レートとの関係は一般的に考えられているよりも弱まっている可能性が高いことをG7諸国のデータから明らかにした。

第5章「東アジア諸国の経常収支と人民元：人民元切り上げは有効か」では、構造VARモデルを推計し、中国は貯蓄過剰が経常収支黒字の原因であるが、その他の東アジア諸国では貯蓄過剰が原因ではなく、割安な為替レートが経常収支黒字の主因であることを明らかにし、人民元切り上げによる経常収支黒字の削減効果は小さい可能性が高いこと、ならびに、中国と他の東アジア諸国の間で経常収支黒字を削減するために異なる手段をとる必要があることを指摘している。

第6章「東アジア諸国の外貨準備：外貨準備は過剰か」では、バッファーストック・モデルを用いて2000年以降に最適保有量を上回っている国が多いことが確認され、東アジア諸国の外貨準備保有が過剰であったことを明らかにしている。

第7章「グローバル・インバランスと世界金融危機：円キャリー・トレードによる分析」では、円キャリー・トレードが急増する2004年以降には米国の株価に影響を与えていることを明らかにし、円キャリー・トレードを通じて、海外の過剰流動性が米国の資産価格バブルの一因になった田という意味で世界金融危機の一因となったとしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6件)

① Kentaro Iwatsubo, External Adjustments and Coordinated Exchange Rate Policy in Asia (with Eiji Ogawa査読有り), Journal of Asian Economics, 20, 2009, pp. 225-239.

② 岩壺健太郎「エンキャリー・トレードと世界金融危機」(査読無し)『国民経済雑誌』200. 5, 2009, pp. 35-49.

③ 松林洋一「米国経常収支・資本収支の構造的変動と循環的変動」(査読無し)『フィナンシャル・レビュー』, 2009, pp. 93-118.

④ Yoichi Matsubayashi, Empirical Analysis of Export Demand Behavior of LDCs, (査読有り), Economic Bulletin, 29, 2009, pp. 1996-2005.

⑤ 五百旗頭真吾「経常収支の反転：株価バブルとの関連性」(査読無し)『社会科学』, 52, 2008, pp. 59-85.

⑥ Takeshi Hoshikawa, The Causal Relationships between Foreign Exchange Intervention and Exchange Rate, (査読有り), Applied Economic Letters, 15, 2008, pp. 519-522.

[学会発表] (計 5件)

① 五百旗頭真吾「経常収支反転の2形態」日本金融学会、2010. 9. 25、神戸大学。

② 岩壺健太郎、International Transmission of Business Cycles, 日本金融学会、2010. 9. 25、神戸大学。

③ 北野重人、Capital Control and Welfare, 日本経済学会、2010. 6. 6、千葉大学。

④ 岩壺健太郎「エンキャリー・トレード、グローバル・インバランス、世界金融危機」、日本金融学会、2009. 11. 8、香川大学。

⑤ 松林洋一「米国における資本収支の構造的変動と循環的変動」日本国際経済学会、2009. 10. 18、中央大学。

[図書] (計3件)

① 藤田誠一・岩壺健太郎『グローバル・インバランスの経済分析』有斐閣、2010, 221。

② 松林洋一『対外不均衡とマクロ経済』東洋経済新報社、2010, 400。

③ アイケングリーン (畑瀬真理子・松林洋一訳)『グローバル・インバランス』東洋経済新報社、2010, 210。

④ 藤田誠一・小川英治『国際金融理論』有斐閣、2008, 209。

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田 誠一 (FUJITA SEIICHI)
神戸大学・経済学研究科・教授
研究者番号：40135778

(2) 研究分担者

松林 洋一 (MATSUBAYASHI TOICHI)
神戸大学・経済学研究科・教授
研究者番号：90239062

岩壺 健太郎 (KENTARO IWATSUBO)
神戸大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：90372466

北野 重人 (SHIGETO KITANO)
神戸大学・経済経営研究所・准教授
研究者番号：00362260

五百旗頭 真吾 (SHINGO IOKIBE)
同志社大学・商学部・准教授
研究者番号：30411060

星河 武志 (HOSHIKAWA TAKESHI)
近畿大学・経済学部・講師
研究者番号：20467674

(3) 連携研究者

()

研究者番号：